

# 交流居住のススメ～人口増で元気な地域づくり～交流居住推進企画

## 交流居住の背景

団塊の世代の大量定年退職時代を迎え、全国各地において都会住まいの中高年が自然豊かな地方に移住し生活を始めるというライフスタイルの変化が始まっています。

これまで静岡県の人口は、東京と名古屋・大阪の東海道沿線にあり、気候温暖で企業も多く立地し、他県に比べ住みやすく生活しやすいことから増加傾向にありましたが、近年では全国同様人口が徐々に減少し始めています。

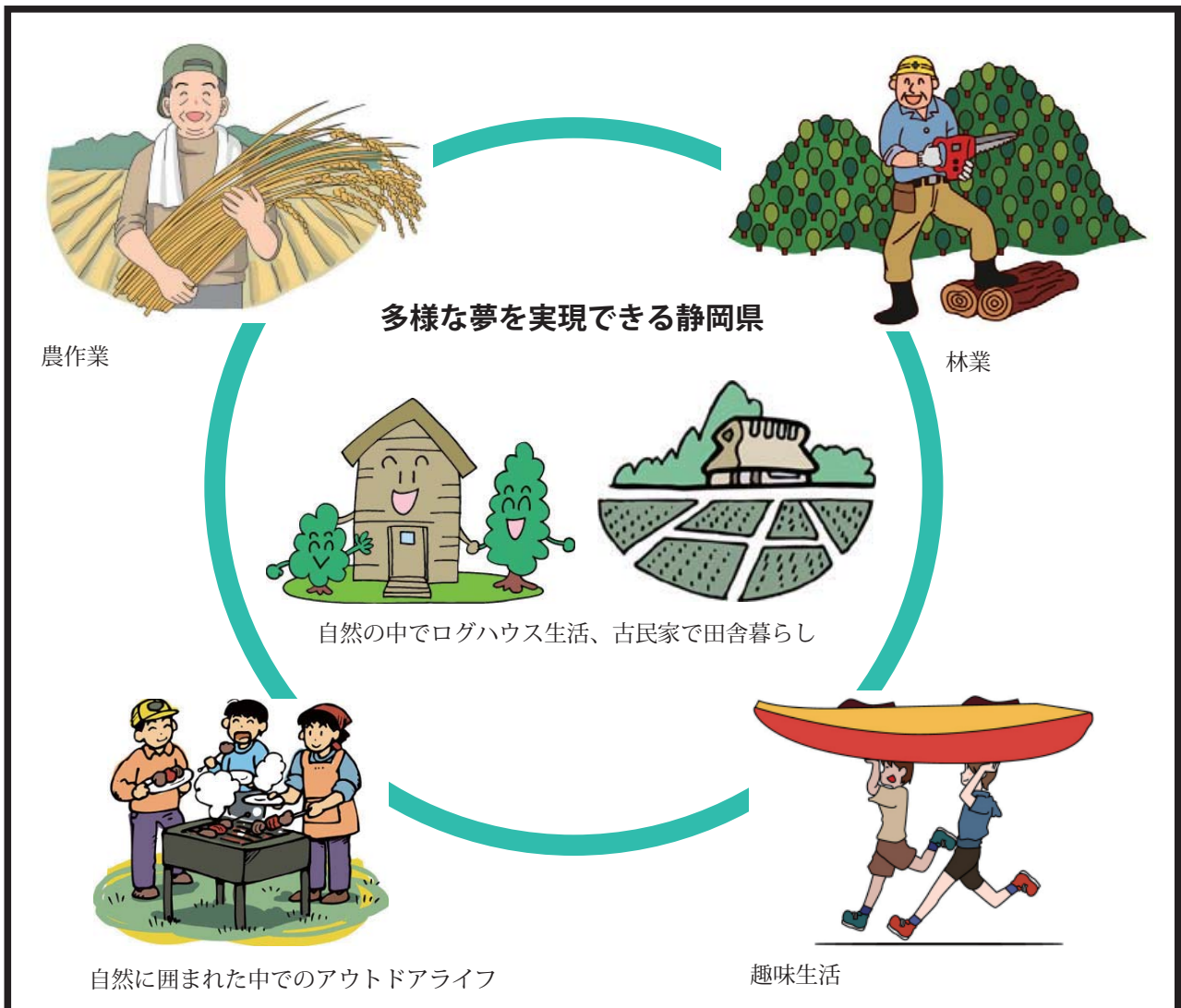
過疎化の進行が著しい道府県においては、既に10年ほど前からU・J・Iターンなどの居住者の誘致が行われています。静岡県においても過疎に悩む地域にあっては数年前よりこうした団塊の世代の受入れや定住者誘致が動き始めています。

## 静岡県の優位性を生かしたプログラムづくりの必要性

平野部での降雪はほとんどない温暖な気候であることから、余生は静岡県を希望する人も多いという話を良く聞きます。

これからの時代にあっては、他県の企業誘致ならぬ定住人口の誘致もますます激化してくることが予測されます。

定住人口の増加だけでなく交流人口の増加を進めることは、地方の税収増、シニア世代の知識や経験を生かした活性化など、今後のまちづくりにとって大きなプラスとなってきます。



# 交流居住推進計画の進め方

## 序章 計画の目的と進め方

1. 計画の目的
2. 進め方

## 第1章 市町の状況

1. 位置・気候条件
2. 人口・世帯等の推移
3. 主要施設の状況
4. 産業の状況

## 第2章 地区の課題と意向把握

## 第3章 市町における交流居住の必要性和効果

## 第4章 類型別受入れ可能サービスの可能性検討

1. 条件整理
2. 受入れサービス分析

## 第5章 市町における取り組み方針

## 第6章 交流居住推進体制づくり

1. 体制づくり
2. PRのための取り組み

## 第7章 交流居住候補地の選定

## 第8章 候補地（モデル地区）の条件整理

1. 地区の概況
2. 地区の風習等の整理
3. 受け入れ主体の検討
4. 運営システムの検討

## 第9章 実現に向けての施策

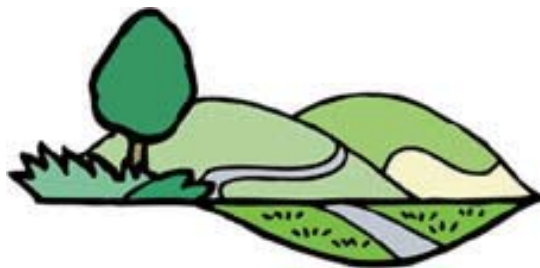
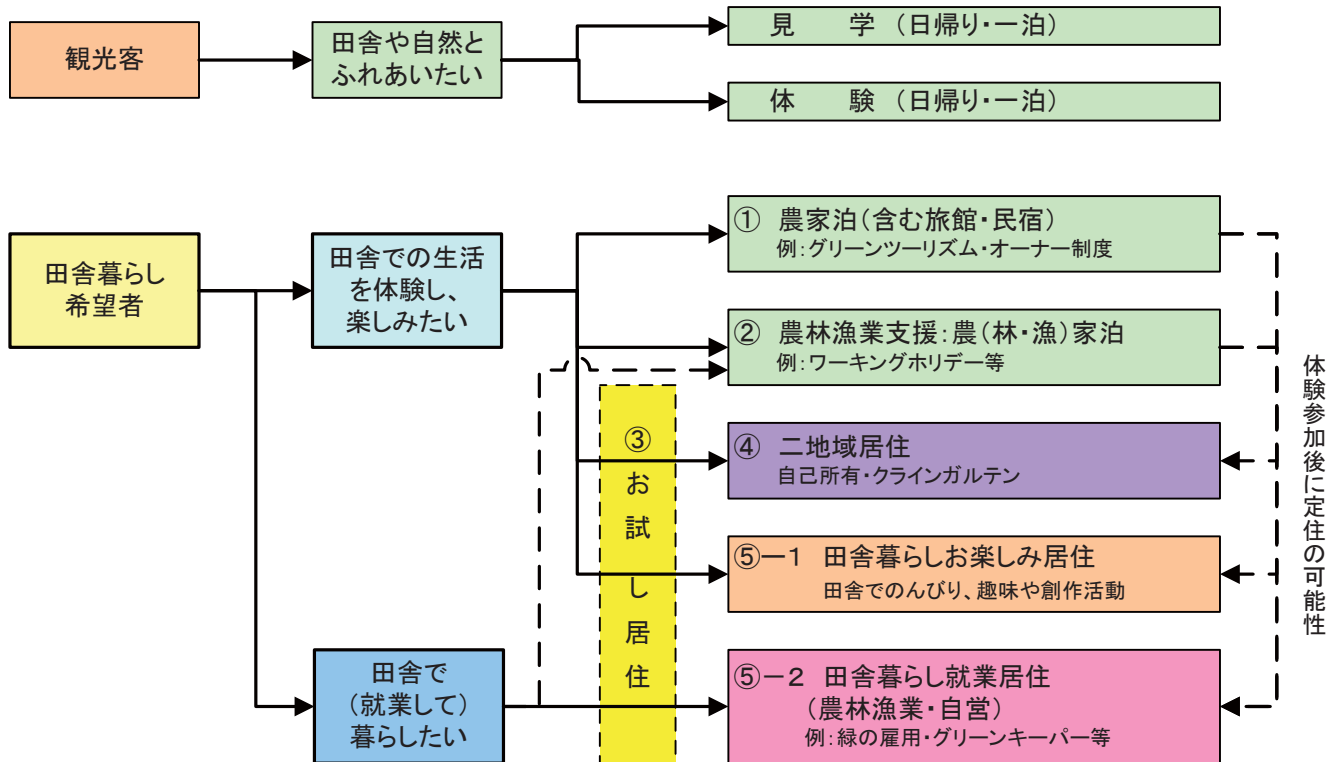
1. スケジュール
2. 解決すべき課題
3. 具体的な取り組み

## 交流居住のパターン

一口に交流居住と言っても、その居住パターンはいろいろ考えられます。

そこで、地域が受け持つことが可能な居住パターンがどれに当てはまるかを検証し、ライバル地域に対し大きくリードする施策が必要となります。

### 田舎暮らしの志向パターンと分類



この案内に関する問い合わせ先

株式会社 地域デザイン研究所

420-0913 静岡市葵区瀬名川3-12-20

電話: 054-263-8747

FAX: 054-263-4787

メール: [chiiki@mail.wbs.ne.jp](mailto:chiiki@mail.wbs.ne.jp)

ホームページ: <http://www.chiiki-keikaku.co.jp/index.html>